

たどつのもかし

Vol. 19 H30.6.13 発行

★弥生土器・土師器がザックザク『^{かさやいせき}笠屋遺跡』

本年度の5月下旬から6月上旬にかけて四箇の^{かさや}笠屋地区にある『^{かさやいせき}笠屋遺跡』において発掘調査を行いました。この遺跡は以前から弥生時代の遺跡ではないかとされてきましたが、出土遺物がないためはっきりとはわかっていませんでした。今回の調査で^{みぞしょういこう たてあなしゅうきょ}溝状遺構と^{かんけいひん}竪穴住居らしき遺構が確認されました。また溝状遺構の中から大量（約500kg）の土器、しかも^{かけら}欠片だけではなく形をそのまま残している物（完形品）も出土しました。多度津町内の発掘調査でも多くの土器が出土していますが、この遺跡ほど多くの完形品が出土している場所はあまり多くなく珍しい事だと考えられます。

この調査でわかってきたことは、出土した土器の形から弥生時代後期から古墳時代の初めごろの物であるとわかり、笠屋遺跡の時代がその頃の遺跡ではないかということと、竪穴住居と溝状遺構から集落遺跡であることはわかりましたが、ここは集落の中心部分ではなく、さらに北に向けて広がっていく集落の南東部端に位置しているのではないかと考えられます。

